



旅立ちの日に

小・中・高等学校で卒業式

新型コロナウイルス感染症の収束が見込めないなか、行事の縮小や中止を余儀なくされましたが、さまざまな工夫で乗り越え、抱えきれない思い出を胸に学校をあとにしました。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。



令和4年度 町政執行方針



4月から新しい年度が始まりました。この1年間、どのようにまちづくりを進めていくのか、3月の町議会定例会で刈田町長が町政執行方針を述べ、その実現に必要な予算が決定しました。「人と自然が輝くオホーツクのまち」を目標に掲げる町政の執行方針（要旨）と令和4年度予算の概要をお知らせします。

はじめに

私は、昨年10月の町長選挙におきまして、町民の皆さまをはじめ、町内各方面の方々からの力強いご支援とご理解を賜り、湧別町の第3代町長として町政を担わせていただくこととなりました。私の1期目の町政執行にあたっての所信の一端を申し上げることができまことは、誠に光栄であるとともに、あらためてその責務の重大さを痛感しているところでございます。

石田前町長が積み重ねてこられた町政をしつかりと継承しつつ、さらに一歩前へ踏み出し、4年の任期の中で、「町民が安心して暮らせる持続可能な地域社会の実現」を目指し、全身全霊で取り組んでまいり所存であります。

町政を取り巻く諸情勢

わが国の経済情勢は、「景気は、持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる」とされ、先行きについては各種政策の効果や海外経済活動に改善もあって、持ち直していくことが期待されるが、感染拡大による影響や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある。」とされており、政府は、ポストコロナの持続的な経済成長を生み出す4つの原動力として、「グリーン社会の実現」、「官民挙げたデジタル化の加速」、「日本全体を元気にする活力ある地方創り」、「少子化の克服子供を産み育てやすい社会の実現」を掲げ、実現に向け投資を重点的に促進するとしております。地方財政は、新型コロナウイルス感染症対応で直面した課題への対応として国と地方の新たな役割分担について、行政全般の広域化の推進などの検討を進めるとされ、また従来からの課題である防災・減災対策やインフラ施設の長寿命化、福祉・教育・人づくりなどに係る新たなサービス需要の増加、地域間の税源偏在といったさまざまな課題

に対処していくことが求められております。

本町は、これまで「行政改革大綱」などにより、持続的で安定的な財政運営の確立を進めており、各年度決算においても、財政健全化比率の4指標すべてが健全な数値で推移しております。

令和4年度予算の歳入については、町税の増収見込みや地方財政計画における伸び率を勘案した結果、一般財源を前年度より確保できた内容となっており、先行きは新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として不透明な状況です。このような状況の中にあっても、本年度から始めます「第3期湧別町総合計画」の理念である「人と自然が輝くオホーツクのまち」の実現を目指し、まちづくりの礎となる計画を円滑に推進していくため、限られた財源の有効活用を図りながら、行財政運営全般にわたり厳しく見直しを行い、効果的・効率的な財政運営を行ってまいりたいと考えております。

安全・安心で

快適に暮らし続けられるまちづくり

〇定住促進対策

「持家奨励応援補助制度」や「民間賃貸住宅等建設補助制度」により、子育て世代や転入者に対する支援と民間資金を活用した住宅施策を推進します。

〇公営住宅

花園団地の3棟11戸を解体し、2棟6戸の建設を進めます。



○水道

老朽化が進んでいる各水道施設は、「湧別町水道事業アセットマネジメント・経営戦略」等に基づき、計画的な設備の維持修繕・更新を行い、安定供給と健全経営に努めます。

信部内・緑蔭地区への給水は、紋別市沼の上浄水場の老朽化および局地的豪雨などによる濁度・色度の変化に迅速に対応するため、紋別市と共同で「紋別東部地区道営水利施設等保全高度化事業」を推進し、浄水場築造、配水池改修など令和8年度の完成を目指します。

○下水道・登栄床地区漁業集落排水施設

施設の長寿命化を図るため、「ストックマネジメント計画」等に基づき、効率的な施設の修繕・更新を行います。

○道路整備

継続事業である西3線道路の車道幅員を拡幅し、車両などの通行の安全を確保します。

○高規格道路旭川・紋別自動車道

遠軽ICから本町南兵村一区までの約13.8kmが事業採択されました。一日も早い着工・開通、そして、それ以降の新規事業化に向け期成会とともに要請活動を続けます。

また、本町への延伸を見据え、道の駅など都市との交流拠点のあり方についても検討します。

○空き家対策

空き家の実態把握に努め、「空き家除却推進事業」により空き家の除却を進めてきました。本年度をもって「空き家等対策計画」期間を終えたことから、計画の見直しと、成果や課題の検証を行い、新しい除却制度を検討するなど、空き家所有者による適正な管理を進めます。

○公共交通

児童生徒の通学や高齢者の通院・買い物などの移動手段を確保するため、町営バスや乗合八

イヤの効率的な運行に努めます。

遠軽地区3町が共同で生活バス路線などの公共交通の将来像を示す「地域公共交通計画」を2力年で策定し、利用者のニーズに合わせた持続可能な地域公共交通の実現に努めます。

オホーツク紋別空港の紋別・羽田線の路線維持のため、町民のほか、町内の宿泊施設を利用する方や東京湧別会の会員に運賃を助成します。JR石北本線は、地域における重要な公共交通機関のため、北海道および関係市町村と連携し存続に向け取り組みます。

○ごみの収集・処理施設

家庭などから排出される一般廃棄物の収集は、合併時のまま収集体制に細かな違いがあることから、改善するべく検討します。

遠軽地区広域組合が主体となつて進めている新たなリサイクル施設、最終処分場について、継続して整備を進めます。

○防災

登録制メールやLINE、防災用屋外スピーカーを活用し、正確かつ迅速な情報伝達に努めます。

災害対策物資の計画的な備蓄、自主防災組織の設立や活動への連携協力、要援護者台帳を整備して情報共有を行うなど、自助・公助が連携する防災体制の充実強化に取り組みます。



○交通安全

昨年、痛ましい死亡交通事故が発生しました。事故抑止に向け、町民の皆さまや関係機関と一体となり交通安全思想の普及啓発に努めます。

○情報通信対策

令和3年度中完了予定の高速インターネット用の光ファイバー回線網整備事業の完了が、令和3年度から4年度にずれ込んだことから、早期完了を要請します。

「自治体デジタル・トランスフォーメーション推進計画」に基づき、自治体システムの標準化や行政手続きのオンライン化などに計画的に取り組み、利便性の向上と行政事務の効率化につなげます。

豊かな自然と産業がともに息づく 活気あふれるまちづくり

○畜産業

えんゆう農協が進める哺育育成センターの整備について支援します。

農業公社による「草地畜産基盤整備事業」を実施し、良質な粗飼料の確保に努めます。

「バイオマス産業都市構想」に基づき、持続性のあるバイオマス産業の構築と環境にやさしく災害に強いまちづくりを推進します。



○農業振興

農産物のほ場試験やスマート農業の調査研究、新規就農対策、オンラインを活用した農業後継者パートナー対策など、湧別町農業振興協議会の取り組みを支援します。

新規就農者サポート事業により、必要な投資を行った事業に対し経営安定化を支援するとともに、新たな新規就農者の受け入れに努めます。

○漁業

「つくり育てる漁業」の推進と、漁業生産の安定確保に向け、湧別漁協と連携を図り、漁業振興策を推進します。

湧別川が水産業に与える影響は、サケ・マスのふ化放流、捕獲採卵事業のほか、ホタテガイ漁場にまで及ぶことから、「湧別川河口部閉塞等対策協議会」を最大限に活用し、重要課題の解決に向け取り組みます。

各種漁港の整備と管理は北海道が行っており、本年度は湧別漁港と芭露漁港の航路のしゅんせつ、登栄床漁港の物揚場と護岸の補修、サロマ湖漁港第2湖口の防水施設の改良などに必要な地元負担を行います。



○林業

採算性の低下などにより森林所有者が森林づくりへの意欲を失い、森林離れが進んでいることから、遠軽地区森林組合などと連携をして、「民有林振興対策事業」に加え、森林環境譲与税を財源とした「民有林整備事業」や「林業人材育成・担い手確保対策事業」により、私有林の整備や森林整備を担う林業関係団体の人材確保に対する支援をします。

新生児への町有林材で作った木製玩具の配付や、児童施設への木製遊具の設置を行い、木に触れ、感じる機会を創出します。

オホーツク管内一の面積を誇る町有林は、「植えて、育てて、切って、また植える」循環

型の森林経営を推進します。

町有林の6割を占める人工林の半分以上が利用期を迎えており、町の貴重な収入源として、本年度はカラマツとトドマツ合わせて約43ヘクタールの皆伐を計画しています。



○商工業

「商工業振興事業」と「商業等店舗整備促進事業」のほか、「起業支援事業」や「小規模事業者施設等整備事業」により事業者を支援します。

新型コロナウイルス禍で落ち込んだ個人消費の復活を目的とした「愛町購買事業」に支援し、新たな消費喚起につなげます。

○観光

あまり知られていない地元の魅力や人・食・景観を紹介する情報誌、テレビ番組などを通じて、本町の魅力を発信し、誘客を図ります。

広域で進めている花回遊（オホーツク周遊200キロ推進協議会）やサロマ湖観光物産振興協議会で、近隣客が短期間訪れるマイクログツリズムに照準を合わせた観光プロモーションや広告宣伝事業を推進します。

旅行者やワーケーションの方に向け、レイクパレスなどにインターネット環境を整備し、満足度や魅力度の向上につなげるとともに、新たに指定管理者などが取り組もうとしている事業に対しても積極的に支援します。

○雇用労働

「奨学金返還支援事業」の対象に町職員の一部職や保育士を加えるなど見直しを行います。

町職員の保健師など、資格を持つ専門的職員の人材確保が困難な状況から、就業時に必要な資金を貸し付ける制度を新設します。

首都圏で行われる移住交流フェアに参加するなど、若年層の労働者人口の確保と定住の促進を図ります。

○企業誘致

地域の活性化や雇用の促進にもつながることから、コロナ禍による働き方改革の推進で場所と時間にとらわれない「テレワーク」を活用する地方型サテライトオフィスの誘致を含め、不動産情報の提供や支援制度などのPRに努めます。



○産業間連携

農林水産業や商工観光業など、産業間における連携強化を図るための組織「湧別町産業間ネットワーク」により、札幌圏での観光・交流イベントに参加して、本町の魅力や特産品の魅力を発信します。

また、「ふるさと小包応援」の贈呈やふるさと応援寄附者の中から抽選で本町特産品を贈呈する「都市住民との交流事業」により、地場産品の消費拡大と普及啓発を図るなど、効果的な特産品・観光PR事業に取り組みます。

○魅力あるまちづくり

地域資源や特産品などを活用した研究開発、町や特産品のイメージアップ、産業間連携による産業振興の推進など、魅力あるまちづくりに取り込む町民や事業所などの自主的な活動を支援します。

誰もがいきいきと笑顔で暮らせる ぬくもりのあるまちづくり

○健康づくり

総合健診や予防接種など各種保健事業の実施や、保健師や管理栄養士による相談体制の充実を図り、地域と連携・協力しながら町民の健康維持に向けた活動を推進します。

新型コロナウイルス感染症の感染予防の徹底を呼び掛けるとともに、国や北海道と連携を図りながら、ワクチン接種をはじめとした感染症対策の実施に努めます。



○地域医療

地域の医療を守り続けるため、医師や地域医療体制の確保に向けて、関係団体と連携しながら、国や北海道への要請活動を行います。

「ゆうゆう厚生クリニック」と「曽我病院」に各種支援を継続するほか、2次医療機関である「遠軽厚生病院」に財政支援をします。

○障がい者福祉

障害者総合支援法に基づく介護給付サービスなどの適切な実施に努めます。

障がいがある方々の相談支援体制の充実に努め、社会生活を支援します。

地域活動支援センター利用者が活動しやすいよう、施設整備を支援します。

○高齢者福祉・介護保険

本町の65歳以上の高齢者の割合は38.9%で年々上昇傾向です。高齢者が自立した生活を送ることができるよう、日常生活上の支援体制の充実と社会参加を推進します。

○子育て支援

子育て世代包括支援センターを窓口、「第2期湧別町子ども・子育て支援事業計画」に基づいた切れ目のない支援に努めます。

また、子どもが生まれた家庭に育児用品と木製玩具の詰め合わせを贈り、子育ての楽しさにつなげていきます。



○母子保健

産後1年未満の産婦を対象とする「産後ケア事業」に新たに「母乳相談事業」を組み合わせて実施します。

不妊に悩むご夫婦に対する「不妊治療費の助成」を公的保険適用後も継続するほか、「出産準備金支給事業」についても継続して実施します。

また、新婚生活に向けた経済的負担軽減のため、新居の家賃や引越費用の一部を助成する「結婚新生活支援事業」も継続して実施します。

○認定こども園・保育所

町立の上湧別地区の3保育所と民間の「和光学園みのり幼稚園」を統合し、4月より「公私連携幼保連携型認定こども園みのり」として新

たな体制でスタートします。合わせて、湧別保育所を、町立による保育所型の認定こども園に移行することで、親の就労形態にかかわらず、同じ施設で教育・保育が受けられることとなり、芭露保育所を含めた町内3施設での新たな体制による幼児教育・保育の充実に取り組みます。



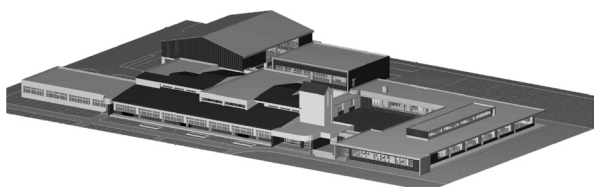
豊かな心と
ふるさとを愛する心を育むまちづくり

○学校教育

小中一貫教育を進めるため、全町に義務教育学校を導入することを方針とし、令和5年4月に開校する湧別地区義務教育学校（仮称）の開校準備を進めます。

上湧別地区については、地域との懇談会の内容を踏まえ、義務教育学校の設置に向けて、具体的な協議を重ねていきます。

（仮称）湧別地区義務教育学校のイメージ図



○湧別高等学校の存続対策

少子化の影響により、2間口を維持する入学者数の確保が厳しい状況にあることから、「湧別高校存続対策事業」により、湧別高校の魅力向上に資する事業に対して支援を行うとともに、生徒と意見交換する場を設けて、同校の魅力向上を支援します。

地域との協働体制「高校魅力化コンソーシアム」により、高校の魅力化向上に取り組んできました。今後は、特進コースなどの導入や、地域による湧別高校応援団の設置など、できる限りの施策を取り入れ、持続可能で魅力ある学校づくりに取り組めます。

○大学との連携協定

北海道大学大学院教育学研究院との相互協力「包括連携協定大学活動支援事業」により、本町をフィールドとした北海道大学の教員と学生の活動を支援するとともに、本町の学校教育や社会教育、スポーツ振興、産業分野に対する指導・助言などの協力を大学側から受けます。

町民一人ひとりが支え合い助け合う

思いやりのあるまちづくり

○行政運営

「自治基本条例」に基づいた町政運営を進めるとともに、自治推進委員会に対し諮問を行い同条例の見直しと推進に向けた取り組みを行います。

「第3次湧別町行政改革大綱」に基づき、経費削減、事務の改善・効率化を図るとともに、外部評価を含めた行政評価を実施します。

○役場庁舎の集約

町民の利便性、庁舎の効率性、防災対策など

を念頭に置き、集約にかかる費用などの情報をオープンにしたなかで、町民主体による検討委員会を中心に具体的な協議を進めます。

○広報

「広報ゆうべつ」の紙面の充実、ホームページの分かりやすい情報の発信に努め、行政の透明性を高めます。

○広聴

町政への意見・要望を募り、町民の声を聴く「町長への手紙」や、直接対話による「移動町長室」を継続するとともに、幅広い世代から町政に対する意見を伺うため、団体やサークルなどの会合等に出向いて、意見交換を行います。自治会を通じた「まちづくり懇談会」は、一人でも多くの町民の皆さまに参加してもらえよう、テーマを設けない形式に改めます。



○地域コミュニティ活動支援

地域コミュニティ機能が低下し、存続が危ぶまれていることから、地区会館を中心とした「地域活性化計画」を策定いただき、地域課題の解決や活性化について取り組みます。

○自治会活動支援

外国人の方々を地域社会の一員として受け入れ、お互いがお互いを理解し合う「多文化共生の地域社会」のシステムづくりについて、総合的な視点で検討を進めます。

○チャレンジデー

運動不足解消とスポーツへの参加気運を高めるきっかけづくりとして、住民総参加型のス

ポーツイベントである「チャレンジデー」に参加します。

○ふるさと応援寄附

市場規模が拡大し本町における寄付額も増加していることから、新たに受付ポータルサイトを2カ所追加し情報発信の強化を図ります。産業間ネットワークの事業として、新聞やデジタルアプリなどの媒体への広告掲載と寄付をいただいた方に抽選で特産品を贈呈し、町と特産品の認知度向上や消費拡大に取り組み、湧別ファンの拡大、リピーターの確保を図ります。

予算編成

「町民福祉の向上」を最優先に、住民生活の安定と町の持続的発展に向け、町の宝である子ども健全育成と産業の振興などを重点に編成しました。その結果、一般会計では前年度当初予算に比べ7億9、600万円増の97億1千万円となりました。不足する財源は基金に頼らざるを得ず、財政調整基金から2億4、100万円を繰り入れし、収支の均衡を図っています。

むすび

湧別町は開拓から140年の節目を迎えます。私たちに、先人たちが幾多の困難に立ち向かい守り育ててきた豊かな自然環境や、築き上げてきた歴史・文化を次の世代へ引き継いでいく責任があります。

人口減少・少子高齢化など地方を取り巻く環境が厳しさを増すなかであっても、「ここに住んでいてよかった」と実感できる魅力的な町であり続けるために、町民の皆さまとともに、湧別町総合計画に掲げるまちづくりの将来像「人と自然が輝くオホーツクのまち」の実現を目指し、総合計画に掲げる施策を着実に実行してまいります。

予算編成

歳入

主要な一般財源である町税は、町民税に営業所得の増収が見込まれることから、町税全体では、前年度当初予算に比べ、1億1,450万円増の11億6,900万円を計上。

地方交付税は、国の配分総額が前年度より3.5%増加することなどにより、2億円増の39億円を計上。

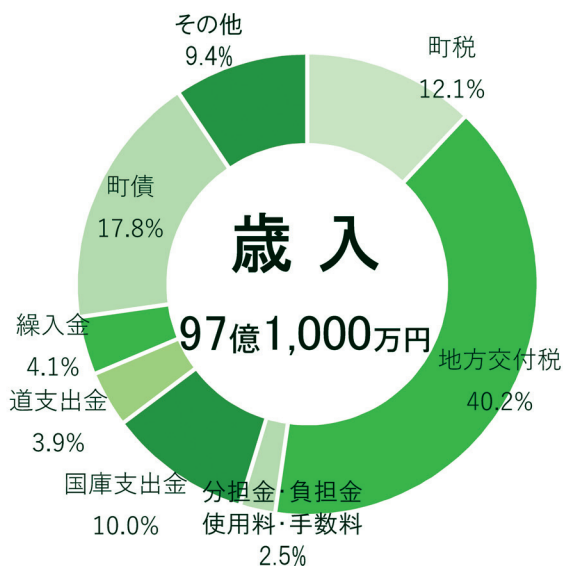
歳出

医療費や扶助費など社会保障費の増加と公共施設や道路、上下水道のインフラ施設などの老朽化に伴う維持補修費の増大と、大型事業実施により増加していますが、本町の地場産業振興と地域活性化などを図るとともに財政の健全化にも配慮しながら予算編成。

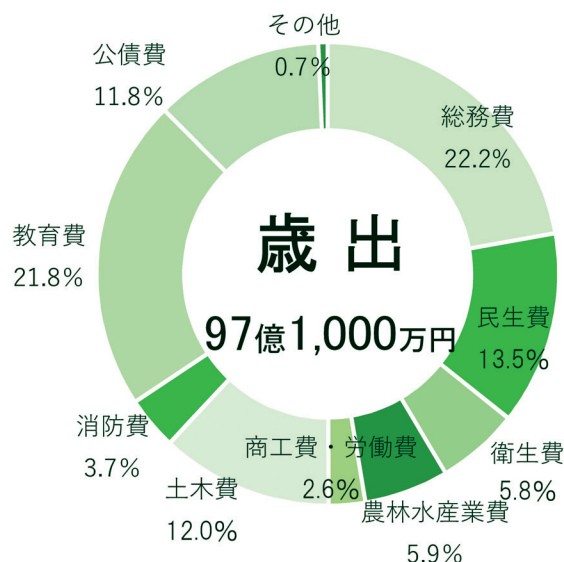
不足する財源は基金に頼らざるを得ず、財政調整基金から2億4,100万円を繰り入れし、収支の均衡を図っています。

令和4年度
まちの予算

「町民の福祉向上」を最優先に、住民生活の安定と町の持続的発展に向け、将来を担う町の宝である子どもたちの健全育成と産業の振興などを重点に編成しました。



(単位：千円)



(単位：千円)

項目	説明	予算額	前年比
町税	町民税など、皆さんが町に納める税金	1,169,903	114,583
地方交付税	一定の行政水準維持のため国から交付されるお金	3,900,000	200,000
分担金・負担金 使用料・手数料	施設の使用料や手数料など	242,096	△ 7,997
国庫支出金	使い道を指定し、国から交付されるお金	972,673	355,794
道支出金	使い道を指定し、道から交付されるお金	382,580	△ 535,267
繰入金	町の基金(貯金)から繰り入れするお金	394,518	21,806
町債	町が事業などを行うために国などから借入れるお金	1,732,900	501,300
その他	地方譲与税、地方消費税交付金など	915,330	145,781
合計		9,710,000	796,000

項目	説明	予算額	前年比
総務費	人件費・財産管理など管理運営に使われるお金	2,153,056	137,926
民生費	社会福祉や生活扶助に使われるお金	1,314,843	78,475
衛生費	ごみ処理、医療費助成などに使われるお金	559,799	63,168
農林水産業費	農林水産業の振興に使われるお金	574,187	△ 773,703
商工費・労働費	商工業の振興、雇用対策等に使われるお金	247,890	1,876
土木費	道路整備・町営住宅の整備や管理に使われるお金	1,167,338	117,689
消防費	消防活動・災害対策に使われるお金	360,243	11,788
教育費	教育・文化・スポーツなど教育活動に使われるお金	2,119,949	1,087,047
公債費	町債(借入金)を返済するために使われるお金	1,149,374	78,622
その他	議会費・災害復旧費・予備費など	63,321	△ 6,888
合計		9,710,000	796,000

令和4年度会計予算

一般会計	97億1,000万円 (8.9%増)
国民健康保険特別会計	14億7,960万円 (0.5%減)
後期高齢者医療特別会計	1億6,010万円 (4.1%増)
介護保険特別会計	11億4,360万円 (1.5%増)
水道事業会計	2億6,700万円 (0.1%減)
簡易水道事業特別会計	9,060万円 (51.3%増)
下水道事業特別会計	4億 500万円 (2.4%減)
7会計合計	132億5,590万円 (6.7%増)

※ () は対前年比

町民一人当たりの町税負担額

142,427円

※町税額を令和4年3月31日現在の
人口 8,214人で除して算出

町民一人当たりが受ける行政サービス額

1,182,128円

※歳出総額を令和4年3月31日現在の
人口 8,214人で除して算出

令和4年度の主な事業とその事業費

※1万円未満は、切り捨てて掲載しています。

総務費

ふるさと納税推進に要する経費	1億8,121万円
オホーツク紋別空港利用促進事業	510万円
持家奨励(住宅建設・中古住宅購入)応援補助	1,900万円
民間賃貸住宅等建設補助	2,544万円
奨学金返還支援事業補助	72万円
地域おこし協力隊サポート業務委託	167万円
産業間ネットワーク負担金	753万円
ゆうべつチャレンジデー2022実行委員会負担金	276万円
包括連携協定大学活動支援事業補助	100万円
魅力あるまちづくり スタートアップ応援事業補助	100万円
空家等除却推進事業補助	4,000万円

民生費

結婚新生活支援事業補助	150万円
高齢者外出支援ハイヤー料金扶助	1,104万円
高齢者通院バス運賃扶助	820万円
外国人介護福祉人材育成支援協議会負担金	530万円
介護職研修費助成事業	50万円
出産準備金支給事業	550万円
乳幼児等医療費助成事業	2,868万円

衛生費

医療機器等整備事業補助	2,236万円
地域医療維持費補助	1,470万円
予防接種に要する経費	2,329万円
産後母子サポート事業	145万円
育児パッケージプレゼント事業	137万円
不妊治療費助成事業	100万円
遠軽地区連携地域広域事業	5,306万円

労働費

新規就業等移住支援事業補助	160万円
---------------	-------

農林水産業費

新規就農者サポート事業補助	225万円
哺育育成センター整備事業補助	1億9,000万円
北海道農業公社営事業	2,816万円
紋別東部地区道営水利施設等 保全高度化事業負担金	150万円
多面的機能支払交付金事業補助	5,836万円
町有林管理事業	9,759万円
民有林造林推進事業に要する経費	4,505万円
漁港整備事業	3,992万円

商工費

商工業振興事業補助	2,391万円
商業等店舗整備促進事業補助金	300万円
起業支援事業補助金	490万円
小規模事業者施設等整備事業補助金	633万円
チューリップフェア運営に要する経費	1,920万円

土木費

除雪車両購入費	1億3,252万円
町道維持管理に要する経費	4億4,460万円
西3線道路拡幅舗装工事	7,400万円
公営住宅花園団地建替事業	1億6,150万円

教育費

湧別高等学校存続対策事業補助	2,345万円
湧別地区義務教育学校整備事業	14億 422万円
社会教育・体育施設等 照明LED化事業	1,652万円
文化センターさざ波 舞台吊物装置改修事業	2,700万円